

**授業概要**

昭和前期の短篇小説を例に、日本の近代小説の読み方を学びます。

小説を読むということは、これまでの学校教育で学んできた方法とはかなり異なる、別のスキルが必要になります。それらを具体的な小説を例に、演習形式で学んでいきます。

毎回、テキストに収録された小説を読んでそれを授業内で報告、発表する形をとり、受講者全員とともに考え、小説を読むとはいかなることかを学び、読みの可能性を拡げていくよう指導します。

人と対話することが非常に大事な授業になります。

**授業計画**

受講者の人数によって変更もあり得る。

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	発表方法について
第 3 回	平林たい子「施療室にて」についての報告発表
第 4 回	井伏鱒二「鯉」についての報告発表
第 5 回	佐多稲子「キャラメル工場から」についての報告発表
第 6 回	堀辰雄「死の素描」についての報告発表
第 7 回	梶井基次郎「闇の絵巻」についての報告発表
第 8 回	牧野信一「ゼーロン」についての報告発表
第 9 回	小林多喜二「母たち」についての報告発表
第 10 回	伊藤整「生物祭」についての報告発表
第 11 回	室生犀星「あにいもうと」についての報告発表
第 12 回	北条民雄「いのちの初夜」についての報告発表
第 13 回	宮本百合子「築地河岸」についての報告発表
第 14 回	高見順「虚実」についての報告発表
第 15 回	まとめ
第 16 回	課題提出

**到達目標**

- ① 小説を読み解くとはどのようなものかを知り、読むことの可能性を拡げる。
- ② 他者と意見を交換させる中で、自分の考えを適切に伝え、建設的な意見交換ができるようになる。

**履修上の注意**

授業内で受講者が最低 1 回は発表を行い、毎回意見交換する演習の形を取るため、主体的な参加姿勢が必要になる。履修にあたってはくれぐれも注意すること。発表者以外は、毎回発表される小説の内容について事前に読んできて授業の最初にコメントを記すことになる。

- ① 欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
- ② 授業で指示された小説を必ず読んでくること。
- ③ 受講者の発表を主体的に聞き、求められたら必ず発言すること。

日本文学講読（近現代）Ⅰと連続した内容だが、日本文学講読（近現代）Ⅰを受講していなくても受講可。

**予習・復習****【予習】**

- ・毎回の授業で指示された小説を読んで、考えたことを報告できるようにすること。
- ・自らの発表担当の時には定められた調査考察を行い、発表資料を作成しておくこと。

**【復習】**

- ・授業での議論を踏まえ、小説を読み直すこと。

**評価方法**

授業課題（コメント・発言・受講態度）を 40%、授業内発表を 30%、期末レポートを 30%として評価する。

**テキスト**

- ・教科書名：『日本近代短篇小説選 昭和篇 1』
- ・出版社名：岩波文庫